

## 第9回匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議録

開催日時
令和2年2月7日（金） 10:00～12:00
開催場所
匝瑳市民ふれあいセンター第1会議室
出席者
委員長 鎌田元弘 副委員長 依知川進 委員 田邊久利、大塚榮一、岩井清、飯田正信、 椎名勤、江波戸友美、加瀬功一  (事務局) 企画課：大木課長、江波戸主査、木内副主査
欠席者
委員 下妻一夫、加瀬健司、永井哲哉、熱田晶裕

※委員については敬称略

会議内容
<p><b>【次第】</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 開 会</li><li>2 あいさつ</li><li>3 自己紹介</li><li>4 議 事<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 匝瑳市人口ビジョンについて</li><li>(2) 第2次匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について</li><li>(3) そ の 他</li></ol></li><li>5 閉 会</li></ol> <p><b>【議事内容】</b></p> <p>(1) 匝瑳市人口ビジョンについて 説明に先立ち、国の長期ビジョン及び第2期総合戦略について概要を説明。 その後、資料に基づき事務局から説明した。主な質疑・意見は次のとおり。 《委員長》 事務局から説明があったとおり、人口ビジョンについては、出生率の最新値である平成30年分を追加したほか、前回の会議での検討結果等を反映し、内容調整をしたものである。御質問、御意見等ありましたらお願いします。 《委員》</p>

## 会議内容

出生率がここまで下がってしまい、本当にどうするんだろうという思いだ。早急に手を打たないと大変なことになってしまう。

他の会議に出席した際にもお話ししていることだが、匝瑳市の組織として高齢者支援課はあるが、子育て支援課はない。高齢者に対しては手厚いケアがあるが、子育てに関しての専門部署はない。子育て対策を取らないでいると、若い女性がどんどん匝瑳市から出て行ってしまい、出生率も下がっていく。人が減れば市の魅力も失われていく。「頭を切り替える」なんてものではなくて、抜本的、革新的に取り組んでもらいたい。

《委員長》

委員から御意見があったとおり、大変な状況である。どのような対策を講じるかについては、次の議題である総合戦略の中でも御議論いただく。

《委員》

資料の 21～22 ページに、人口減少が地域に与える影響についての項目があるが、市の一般会計や公共施設の維持管理への影響など、市の財政状況に関する内容に留まっている。

冒頭での国の長期ビジョン・総合戦略の概要説明にもあったとおり、地域から人が減ると地域経済が衰退し、患者の減少により地域医療も衰退していく。人が居なくなると空き家も増加し、こうした要因がより一層人口減少に拍車をかけていく。このような影響についても加筆した方が良いのではないか。

また、26 ページの人口の将来展望において、市は独自推計に基づき、社人研の推計よりも人口減少を緩和する目標を示しているが、希望的観測に感じられる。独自推計では出生率の上昇が仮定されているが、具体的な出生数が記載されていない。平成 27 年度の出生数及び令和 12 年、令和 22 年の出生数の見込みについて伺いたい。

《事務局》

人口減少による負の影響については、23 ページに記載している。地域経済等に関する直接の言及はないが、そうした状況を念頭に置いて、総合戦略の中で具体的施策を検討している。

出生数について、平成 27 年は 236 人、平成 30 年では 142 人である。将来人口推計は 5 年間ごとに出生数を推計しているため、年毎の出生数は推計できないが、令和 7 年から令和 12 年までが 1,163 人、令和 17 年から令和 22 年までが 1,201 人、令和 37 年から令和 42 年までに 1,014 人である。

《委員》

出生数がかなり下がっている中で、今後は年平均 200 人程度まで上げていくことを目指すのであれば、先ほど委員からもお話があったように、抜本的な取組が必要だ。

《委員》

人口減少に歯止めをかけるのは非常に難しい。先程からのお話のとおり、東京一極集中はますます進行している。大阪、名古屋でさえ東京へ人口が流出している状況なので、匝瑳市で人口を増やしていくのはなおのこと難しい。人口

## 会議内容

が減少するという前提のもとに、匝瑳市はどうしたら良いのかということを考えていかなければ、実行力のある対策は出来ないと思う。

流山市は、全国で一番人口増加率が高いと言われている。つくばエクスプレスの開通によって首都圏へのアクセスが良く、財政的にも豊かであるなど、匝瑳市とは状況が異なるが、共働きの子育て世帯の支援として、駅の近くに拠点を整備した。朝には園児をそこに集めてから各保育園へ送り届け、逆に親が迎えに来るまでの間、夜の7時や8時頃まで子どもを預かるなどのサービスを提供している。もちろん、匝瑳市にそれだけのことが出来る財政力があるのか、という点も考えなければならない。

人口は日本全国で減っているなので、匝瑳市で増やそうとしても結局は近隣自治体との奪い合いが起こるだけで、地域全体の人口減少を解決する方策にはならないし、一方で東京からの移住を増やすことも難しい。

人口増加は難問だが、今現在、匝瑳市で仕事や生活する人の暮らしを前提に考えてやっていくことも大切であると思う。匝瑳市は暮らしやすいまちであることが内外に伝われば、その結果として、人口流出を食い止め、転入を増やすことにもつながっていくのではないかと。

《事務局》

人口減少を前提とした施策の展開の必要性については、御指摘のとおりである。流山市は子育て中の共働き世代（DEWKS）をターゲットにしたまちづくりや、保育の充実に取り組んでいると伺っている。どこまで取り入れることができるのかは難しい部分もあるが、先進例として検討していく必要がある。

また、今の匝瑳市での暮らしを充実させることが、住みよいまち、住みたいまちとして、他の地域から人を呼び込むきっかけにもなると思う。

《委員長》

人口ビジョンから具体的な対策に議論が移りつつあるので、総合戦略を見ながらのほうが生産的な議論ができると思われるが、いかがか。

《委員了承》

(2) 第2次匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について資料に基づき事務局から説明した。主な質疑・意見は次のとおり。

《委員長》

御質問、御意見等ありましたらお願いします。

《委員》

まち・ひと・しごと創生総合戦略を作成することにより、国から地方創生関係の交付金が出ると思うが、これはどのくらいの額か。

《事務局》

本市における地方創生推進交付金の活用事業は、総合戦略18ページに記載の「生涯活躍のまちづくり」に関するものである。施設整備や交流づくりといった、ハードとソフトの両面から事業を進めている。

## 会議内容

なお、交付金は事業内容・事業費に応じて交付されるものであり、年度ごとに異なるため、金額については後程お答えしたい。

《委員》

交付金の額が事業の内容によって変わるのだとすれば、国の方針にある程度合致していなければ補助は受けられないということか。

《委員》

交付金は国の予算で1,000億円であったと記憶している。この交付金は創生法に基づき、地方創生事業の実施に関して、自治体が国に請求して配分を受けるものだが、必ずしも満額が交付されるものではないと思う。

《事務局》

交付金は地方創生に効果が高い事業に対して、審査を経た上で国から交付される。なお、交付金を活用するためには、事業を総合戦略に位置づけ、地域再生計画を作成し、国からの認定を受けることが必要である。

《委員》

この総合戦略を作成したのは、コンサルタント業者か。

《事務局》

前戦略の策定時には業務委託を行ったが、今回はない。前戦略についても、コンサル業務は策定の支援にとどまり、戦略の中身については市で検討し、市民参加や市民会議での協議等を経て作成したものである。

《委員長》

第2期はコンサルを使っていない自治体も多いと聞いている。人口分析には専門のノウハウが必要とはいえ、儲けてるのは東京にあるコンサルだけだという批判も耳にする。

《委員》

東京のコンサルに地域の実情がわかるのかという思いがあったが、了解した。

《委員》

みどり平工業団地の従業員数はどのくらいのものか。また、求人はどのくらいあるか。

《委員》

みどり平工業団地連絡協議会から産業振興課に報告している従業員数は900名超であり、関係団体を合わせると1,000名程度になると思う。なお、協議会の加盟企業は4月の総会を経て1社増え、全部で27社になる予定である。

雇用については、新卒者、中途採用、パートを10~20名ほど募集している。春から稼働予定の企業からも、地元雇用について相談を受けているので、求人に関しては多く出ているものと考えている。

《委員》

みどり平工業団地には、空きスペースはあるのか。

《委員》

1区画あったが、県外企業が購入することが決まった。

## 会議内容

工業団地内には更地もあるが、既に企業が所有し、工場の増設用地となる予定である。塩漬け状態の土地は、現在はない。

《委員》

市の総合計画と、この総合戦略の関係性はどのようなものか。

《事務局》

総合計画が市の最上位計画であり、総合戦略はその体系の中に位置付けられている。内容についても関連は深く、人口減少対策にスポットを当てたものが総合戦略である。

《委員》

群馬県に川場村というところがある。道の駅が有名だが、御存じか。

《委員》

商工会で行ったことがある。7,000人程の小さな村だが、道の駅には何万人も観光客が訪れると聞いている。

《委員》

そうした取組は、匝瑳市でも参考になるのではないか。

人口減少が行きつくところは、先ほど委員からお話があったように、全ての縮小である。良いものは伸ばし、悪いものはストップをかけていくことが大切だ。

総合戦略は総合計画と関連があるとのことだが、悪いスパイラルを打ち破るためには、市の総合計画とくっつけて、国からの交付金プラス市の予算という形で強力に進めなければ、きれいな文章だけで終わってしまうことが危惧される。頑張っていたきたい。

《委員》

市としては常識的な範囲しか出せないのだと思うが、特色が見えない。

極論かもしれないが、例えば17ページのKPIである、将来匝瑳市に居住する意思を持つ高校生の割合を7.7%から15%に引き上げるのは、ちょっと頑張れば達成できそうな気がするので「いや、高校生の77%を残すんだ」という意気込みがあってもいいと思う。

実現は難しくとも、あらゆる方法を用いて、発想を転換しないと、周辺自治体とともに衰退してしまう。

《委員長》

メリハリが必要ということだと思う。周りがびっくりするような取組が必要かもしれない。

《委員》

この計画は人口減少対策を目的としているが、人口が減っている理由は、就職を機に若者が流出してしまうことと、出生率が減少しているからである。

14ページの閲覧コーナーについてだが、高校生であれば学校に求人情報が届くし、地元企業からのアプローチもあるが、大学生にはそうした情報が届かない。

そこで、市には大学生向けの職業情報を紹介するサイトを立ち上げてほし

## 会議内容

い。掲載内容は詳細でなくてもよいと思うが、連絡先やホームページなど簡単なものでいいから、大学生向けのサイトをお願いしたい。この話を違う市でしたときに、担当課からは「それはハローワークの仕事である」と言われてしまったが、若者はそうした情報を求めているので、検討いただきたい。

また、16 ページ「定住・移住人口の確保」について、転入者の住宅取得に奨励金を交付する取組があるが、調べたところ最高 100 万円なので、もう少し上乘せしてはどうか。

それと同時に、息子・娘夫婦が親と同居する場合の増改築に対しても補助を広げてはどうか。親との同居は子育て支援にもなるし、親の老後ケアや空き家対策にもつながる。一石二鳥どころか、三鳥、四鳥の効果が期待できるので、ぜひ検討してほしい。

《事務局》

就職情報の発信については、前回の会議でも御意見をいただいていたところである。

この点について、担当課である産業振興課と協議したところ、千葉県が運営するシティプロモーションサイト「千葉県地域しごと NAVI」を通じた情報展開を進めてはどうかという話になった。同サイトでは地域の紹介だけでなく、地元企業の就職情報を発信することが可能であり、現在のところ市内企業の登録は 1 件しかないが、今後は力を入れていきたい。

多世代の同居に対する補助については、県内でも取り組んでいる自治体が見られるため、今後検討したい。

《委員長》

大学の立場から申し上げますと、企業や団体から個別にアプローチがあるが、大変量が多い。例えば、企業情報や地域の補助制度などを県が集約し、ひとまとまりのパッケージとして伝えないと、学生は情報があっても見向きしない。

何のメリットがあるか、自分の将来に何の役に立つかといった観点からの発信があると、学生の目も変わってくると思う。

《委員》

人口ビジョンの 8 ページ、平成 29 年から平成 30 年にかけて、旭市、銚子市とともに出生率が急落した原因は何か。

《事務局》

調査したが、海匝地域だけが落ち込んでいる理由はわからなかった。

《委員》

近接の香取市はキープしていて、匝瑳市と銚子市が極端に下がっている。人口推計によると、匝瑳市の人口は 20 年後にはマイナス 40%になると予測されている。そうした認識の下で、力を入れて人口減少の抑制をしていくためには、やはり、若い人が子育てしやすい環境づくりが必要ではないか。

また、交通アクセスが良くなれば、車で 30 分程度は勤務地として候補に入る。地元雇用も重要だが、近隣の雇用についても意識を向けることも大切だ。成田空港は拡張予定であるし、匝瑳市でも看護師や医療関係者の求人は多い。

## 会議内容

四国では山間部で IT 企業が仕事をしていると聞いた。交通や情報インフラは大きく変わっているので、「田舎だから仕事がない」という考え方を考える必要がある。

《委員》

銚子の出生数が減っている理由は単純で、「結婚するから波崎に移る」ということだと思う。神栖市の出生率は 1.7 程度を維持していたと記憶している。匝瑳市においても、おそらく同様の状況である。子どもが生まれにくい限り人口は増えないので、子どもを安心して産み育てる環境が求められる。

昨日、市の行政改革の会議に参加したが、会議の中で 3 年後には財政調整基金が 20 億円を割る見通しが示された。大変ショッキングだが、お金に余裕がないとなれば、いつの日か事業ができなくなる時が訪れると思う。効果が高いものを絞って取り組まなければ間に合わない。

先日開催された、海匠管内の地元企業と高校生の意見交換会で、良かったことがあった。企業からの「地元は好きか」という質問に、参加した高校 2 年生全員が好きだと答えていたことである。先々の就職が見えてくる 3 年生になると状況は変わってくると思うが、ここに一筋の光が見えた気がする。

工業団地としても「安心して住める、安心して働ける」といった部分を進めている。若い世代は共働きが多いが、彼らはフルタイムで働けなかったり、早朝業務が難しいなどの課題も抱えている。

財政的に難しい部分もあると思うが、知恵を絞り、重点化して取り組んでいくのが、安心して出産し、育てられるまちづくりを実現する一番の近道だと思う。

《委員》

15 ページに「匝瑳市をロケ地とする映画・番組数」とあるが、収録に関する情報は市が丸抱えしており、観光協会や市民には事後報告である。これでは観光協会として協力が難しい。

先ほど話が出た川場村は道の駅だが、ふれあいパークは道の駅ではない。最盛期では 9 億円ほどの売上があったが、今は 6 億円程度まで減った。震災の影響が大きく、銚子方面にお客が来てくれないからで、むしろ地元の人利用が多い。伸ばすのは、よほど市でテコ入れしないと不可能である。

匝りの里は、利用者が増加傾向にある。一時期は倒産も危ぶまれたが、今は急激に内容が変わってきて、売上も増えて利益も出てきている。

八重垣神社祇園祭は発信力があり、九州の指宿や宮城県などからもお客さんが来てくれる。

匝瑳市は兵庫県宍粟市と連携しているが、日常的な繋がりがなく、遠方のためお互いの行き来も難しい。ほかにも提携する地域があれば良いと思う。

《委員》

この戦略は絶対に実現できないと思う。なぜかといえば、行政に職員がいなからだ。日常の業務をこなすだけでも精一杯である。

できるようにするにはどうしたらいいかといえば、民間の活力と知恵を使う

## 会議内容

しかない。つまり協働を推進しなければ、今の行政の仕事は維持できない。適当にやって「やりましたよ」でお茶を濁すことになりがちだ。

匝りの里についても中途半端な施設であるし、建設中のパークゴルフ場もどうなのだろうか。中途半端なものを作るくらいなら中止するか、いっそのこと倍の予算をつけて、全国から人がやってくるような施設にすべきなのに、そうはならず中途半端なものを作って赤字を垂れ流す。

例えば、植木の振興についてもおそらく手付かずになるだろうし、農業の6次産業化についてもやっている時間はない。書かれているのは理想論である。

また、子育て対策についていえば、シングルマザーや困窮者対策をやってもらいたい。今の世の中シングルマザーは多いので、「匝瑳市はシングルマザーに優しいまちだ」とPRすれば、一発で人が増えるだろう。

要するに創意と工夫がない、同じお金を使うのなら、創意工夫があれば効果は100倍にもなるので、知恵を出してもらいたい。

また、これからの情報化社会では、SNSの駆使も含め、デジタル推進課のような専門の部署がなければ、情報戦略に後れを取る。この分野の発展は目覚ましく、何年後にどうなっているか予測がつかない。人間のやる仕事がなくなっていくなど、社会が大きく変化している。そういうことまで考慮しないと、ただ作文をして満足しただけになってしまう。

それにはメリハリをつけることも一つの方法であるし、市民の知恵を活用した、行政と市民との新しい関係を作っていかなければならない。

今までのやり方は限界を迎えている。いかにして市民の知恵を使うかを考えないと、全部が中途半端で終わってしまう。

《委員》

特色あることができないか。市として突飛なことは計画に書けないとは思いますが、やることは一点でもいいからやってもらいたい。

区長会だけでなく、他の色々な団体も人がいなくなっており、今後は行政に協力するのが難しい時代が来ると思う。「よく匝瑳市はあんなことやったな」と言われるような大胆なことをしないと、若い人は集まらないと思う。

《委員》

民間事業者が行う事業や住宅建設には、様々な規制が伴う。法律の規制は侵すことができないが、それに加えて行政指導が存在するため、そのあたりを緩和してほしい。危険なものや安心、安全を損なうものは駄目だとしても、常に行政指導に縛られている。

例として、500㎡以上の埋め立てには許可が必要になる。この規制は建設残土の埋め立てを念頭に置いたものだが、山砂業者が埋め立てる際にも適用され、非常に煩雑な手続きを伴う。緩和すべきところは緩和していかないと、発展は難しいのではないか。

《事務局》

御意見にもあったとおり、行政も職員と財源が減少する中で取組を進めていくためには、地域を総動員する必要がある。掛け声だけで終わるのではなく、

## 会 議 内 容

よりプラクティスな、実践の部分で手を結んでいかなければ、とても維持することはできない。役所ができないから終わりにします、では匝瑳市が縮小してしまう。

《委員》

19 ページに合計特殊出生率が数値目標として設定されているが、出生数も併せて記載してほしい。合計特殊出生率だけではイメージが湧かず響かない。本気で対策を進めるためには、出生数はぜひ乗せたほうが良い。

《事務局》

併記を検討したい。

《委員長》

地方創生の実現のためには、メリハリをつけることや、いかに官民連携や市民協働を取り入れるかがポイントになる。

この市民会議には、それぞれの分野から委員に御参加いただいている。計画審議だけではなく、日常からアイデアを共有する場になるとよい。

(3) そ の 他

《委員長》

委員の皆様から何かございますか。

《一同》

なし。

《委員長》

事務局から何かありますか。

《事務局》

市では、情報提供の一環として、審議会等の議事録を市ホームページで公開している。本日の会議の議事録等についても、後日委員の皆様へ送付するとともに、市ホームページで発言者氏名を「委員」として内容を公開する予定なので、よろしくお願いいたします。

また、次回の会議は3月24日（火）の10時から開催予定です。詳細については後日通知いたしますので、よろしくお願いいたします。

以 上